

## 第1回 いいやま菜の花文庫活用検討委員会会議録 要旨

令和5年（2023年）10月21日（土）

午前9時から11時30分まで

飯山市公民館101会議室

出席者 委員13名、事務局4名

### 1 開会 館長

### 2 あいさつ

会長：絵本で育てるまちづくり事業については、1万冊の本を寄贈いただく飯山市出身の方（上野明雄さん）が声を上げてくださったことから始まったもの。その貴重な本をどのように活用したら良いかご意見をいただきながら、これからの事業において宝として活用できたら良いと考えている。ついては活発なご意見をいただきたい。

### 3 自己紹介

### 4 経過報告

館長：《資料【「絵本で育てるまちづくり事業」の概要について】に沿って説明》

### 5 協議事項

#### 【質疑応答・意見交換の概要】

※経過報告についての質疑応答を含め協議事項の検討となった。

#### （1）「絵本で育てるまちづくり」の目指すもの

会長・事務局：「絵本で育てるまちづくり事業」については、市議会9月定例会に補正予算として寄贈本の受け入れ、講演会・絵本の展覧会である世界の子どもの本展の開催などに係る経費の計上をお願いした。寄贈者の人のつながりを活かし、児童文学等に関する講演会を開催し、その後は講演会を講師から次の講師へのバトンタッチにより定期的に継続していくようにして、そうした活動から飯山市が絵本のまちになって、絵本を通して人と人がつながるあたたかいまちになれば良いと思うとともに、世界の子どもの本展を講演会と同時開催したいとの考えだった。議員からは先ず寄贈本の受け入れに注力し、検討委員会等で市民の声を聞き、寄贈本の活用方策を含めたまちづくり事業として構築してほしいとの意見をいただいた。

事務局：2年の委員任期については、寄贈本の汚れをクリーニングし、それをどう保管し、どのように活用していくかまで検討してもらう期間である。どうすれば市民の皆さんに本を手にとっていただけるか、生活に取り入れていただけるかなどまで考えていきたい。

会長：飯山市寄付採納委員会では今年度は1万冊の本の寄贈を受けることになっている。

寄贈本を受け入れるには、まず本のクリーニング作業が必要で、それは本1冊ごとにカバーの上から固く絞った布雑巾掛けをし、次にカバーを外して内側を拭き、表紙の裏表や中を拭き、本の天井部等を拭くという工程があり、クリーニングを経て本をきれいにした後、どんな作者の、どんな本が何冊来ているかなどの確認をして登録する。そして本にコーティングのフィルムを掛ける。そうした一連の作業に膨大な労力と時間がかかる。本の受け入れから貸し出しまでにはかなり時間がかかる。

事務局：寄贈本はたくさんあるので、受け入れ作業が整った本から順次貸し出す方向で進めていく。

会長：いいやま菜の花文庫という名称は仮称であり、寄贈者はこの地域に馴染みやすい名称にして欲しいとの意向である。名称の公募は事業を周知していく有効な一手段となると思う。

委員：本のクリーニングなどの受け入れ過程も市民と共有した方が意義がある。作業はボランティアを募集するとか学校ごとに依頼するとか大勢の手がないと不可能である。

委員：本に汚れなどがあっても利用する側は構わない。

委員：本をクリーニングし、コーティングのフィルムを掛けないと本はすぐボロボロになり、魅力のないものになってしまう。

事務局：寄贈本は様々な状態の本が一緒に入っている。きれいな本もあれば汚れた本もある。汚れは移るので先ずクリーニングする。その後データ照会をして図書館の蔵書と重複するかどうか確認する。埃等の本の汚れは取れるものは取って子どもたちに貸し出したい。

会長：飯山市社会福祉協議会の市ボランティア連絡協議会に作業の手伝いを依頼してある。クリーニングは精度が求められるので、図書館司書の指示の下、手順をマニュアル化しながら指導者を増やし徐々に手を広げていくこととする。

事務局：《A3版の資料【絵本で育てるまちづくり事業(寄贈図書を有効に活用するために)】に沿って説明》

会長：資料の【実現するための諸施策】に掲載してある項目は現在行っている事業であり、今回寄贈いただく絵本によってそこに当てはまるような活動ができれば良いと考えている。

委員：先ずは本をクリーニングして保管していかないと先へ進まない。

事務局：本のクリーニングや保管を前提として、その本をどう活用していくかを考えていただきたい。

委員：「誰でも読みたい絵本に出会えるまち」というコンセプトは良いと思う。先ずは飯山市民が絵本に馴染んでいるかどうかということがある。寄贈本は子ども向けなので、子

子どもが絵本に馴染んで、親が絵本に馴染んで、絵本をもっと読んで、子どもが絵本は大好きという気持ちになったら事業に組み入れていけば良いと思う。自分が育った地域では民家や駅に貸し出し図書があった。それが当たり前とっていた。

会長：読み聞かせの輪が広がっていけば良いと思っている。地域の方々の意識を絵本に向けていくにはどうしたら良いか。

委員：保育園では0歳児から読み聞かせをしている。読み聞かせの効果はある。家庭でどのくらい読み聞かせをしているかが大事である。クラス崩壊が読み聞かせで穏やかになったという事例もある。この事業で家庭に絵本が広がるきっかけになれば良い。図書館を利用している保護者もいるが全体的には浸透していない。

会長：読み聞かせは子どもとの貴重なひとときである。

委員（高校生）：小さいときは母や図書館が、小学校ではボランティアの方が読み聞かせをしてくれた。とても良かったと思う。絵本は何歳になって読んでもすごいと思う。簡単な文字で書かれているが、考えさせられるし力があると思う。

委員：小学校で月2回くらい朝の読み聞かせをしている。手応えはある。しかし学校は忙しく、朝読書は自習や学力アップなどの取り組みにより衰退している。実際読み聞かせを体験した人は良かったと思っているが、学校や親が忙しくてその対応ができない。絵本に出会う時間を大人が持たないといけない。大人が大人に向けての取り組みをするなど大人の体験が必要だと思う。今の取り組みの延長線上で無理なくできるようになれば良い。本に親しむ者が出向いて講座的なものをするとか、本の紹介等をしながら絵本に親しめる土台を作っていくことが大事だと思う。

事務局：寄贈本は新しい本できれいな状態のものが結構ある。図書館では購入しないが、子どもたちが飛びつくような、集まったときに楽しめるような類もある。

委員：寄贈本をどう活用するかということと、絵本をどう展開していくかということでは話が違うと思う。ここは寄贈本の活用方策の検討の場であり、その本を市民の方々が見られるようにするための課題もクリアしながら、どう活用するか、絵本について市民はどう思っているかなどアプローチの仕方はいろいろあるが、一つずつやっついていかないと進まない。今の取り組みを活用し魅力を付け加えていければ良いのではないか。

会長・事務局：寄贈いただく1万冊は絵本に児童図書を含めての数である。今後は絵本を先行して寄贈いただくこととしていきたい。

## （2）寄贈図書の状況について

事務局：寄贈本と図書館にある本との重複は今現在500冊くらいである。寄贈本は図書館にない本が多いという感じがする。現在、図書館所蔵の児童図書と絵本は1万6千冊くらいで、蔵書全体では13万冊となる。図書館にはいわゆる定番と呼ばれる絵本はあるが新たな絵本作家等のものは少ない。

委員：現在図書館の2階の閲覧室は本でいっぱい状態なので、3階の学習室を活用して

本を置いたら良いと思う。

委員：3階の部屋は本の重量に耐えられるかどうか検証しないと分からない。

委員：今後は小学校が統合されるので、そのどこかに一時置くとかできないか。笹本文庫の先例がある。本を借りやすいようになれば良い。

委員：寄贈本をクリーニングする仕方は図書館司書の方針を尊重し、それに従って行くこととし、その時間や労力面のクリアは次の段階であり、その次にその本をどう活用していくかという流れとなる。

事務局：本をクリーニングし、どこかに置いて活用していくという手順の繰り返しとなる。クリーニング作業の時間は本の状態等によって変わる。

## 6 その他

### (1) 次回開催日時

※寄贈本のクリーニングを10月25日(水)午後2時から5時までの間、対応できる委員が対応できる時間で行うこととなった。当日は市ボランティア連絡協議会へボランティアを依頼していることから、会場は3階学習室で調整することとなった。

また、次回については高校生委員の予定等を確認し決定することとなった。

## 7 施設見学

閉架室を含め図書館の施設見学を行った。

## 8 閉会 館長